

## アルファルファ草地における夏期の除草剤処理効果

田中友子・東 政則・古澤邦夫 (宮崎県畜産試験場)

Tomoko TANAKA, Masanori HIGASHI and Kunio FURUSAWA :  
Effects of Herbicides Treated on Alfalfa Pasture in Summer Season

高温・多湿である西南暖地の環境はアルファルファ草地にとって夏雑草との競争を厳しくし、生産性の低下や草地の荒廃を招いている。雑草の抑制・防除はアルファルファ草地維持に重要な課題である。そこでイネ科雑草の防除に効果が高いとされる除草剤 (セトキシジム 20%、ナブ乳剤) の影響について検討した。

### 1. 試験方法

1993年10月25日に播種した利用3年目のアルファルファ (タチワカバ) 草地を試験に用いた。試験区は1処理につき7.5×20mの1.5aで処理量は草地10a当たり0・100・150・200mlとした。また、8月から9月にかけて手除草を行った区を対照とした。

除草剤は3番草刈取り後、1996年7月22日分げつ中の雑草に処理し、1996年8月20日に4番草、9月24日に5番草、11月21日に6番草、1997年5月1日に翌春1番草を合計4回調査した。途中1997年3月5日、冬雑草除去のため掃除刈りを行った。

### 2. 結果および考察

第1図と第2図は各刈取り時期の雑草およびアルファルファの乾物収量を除草剤処理別に積み上げたグラフである。

除草剤処理直後の4番草は、効果が最も顕著に出ており、200ml区ではほとんど雑草が見られず高い効果が示された。アルファルファの占有率は200ml区で高く89%だった。

5番草は除草区を除く全ての処理区で雑草の乾物収量が増加した。200ml区の増加量が大きかったのは除草剤効果の反動のためと考えられる。アルファルファの乾物収量は4番草と比べて0, 100, 150ml区で増加した。

6番草は夏雑草の勢いも弱くなり100ml以上の区でアルファルファ優先の草地になった。処理量が上がるに伴い雑草の乾物収量は減少し、アルファルファの乾物収量は増加した。

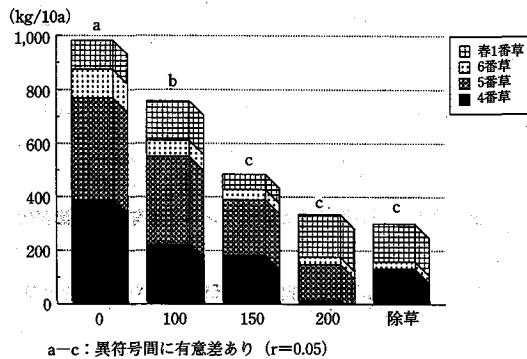
春1番草は、アルファルファ乾物収量が処理量について増加したが、雑草の乾物収量はばらついた。200ml区の雑草乾物収量が高くなったが、除草剤で夏雑草を抑制した分冬雑草が繁茂し易い状況にあったと考えられる。

雑草の乾物収量は、除草剤処理量と比例して効果が認められた。0, 100ml区は除草区と有為差が見られた。

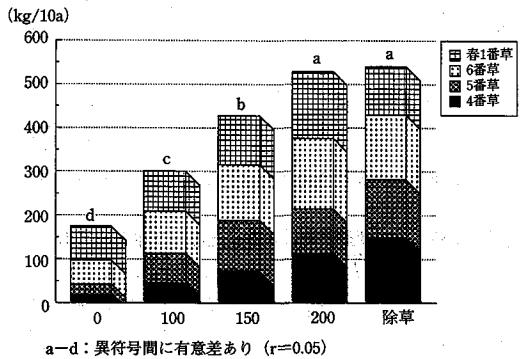
アルファルファの乾物収量も雑草の場合と同様に除草剤の処理量を上げるごとに効果が認められ、0, 100, 150, 200ml区の間で有為差がみられた。除草区と遜色ない効果が得られたのは200ml区のみだった。

### 要約

アルファルファ草地におけるセトキシジム 20%を用いた夏期の雑草防除は、10a当たり薬量200mlが必要であること、またその効果は翌春の草地の状態にまで影響を及ぼすことが確認できた。しかし更に高い防除効果を期待するには除草剤処理の時期や雑草生育状況の違いなどについて検討することが必要と推察される。



第1図 刈取時期別雑草の乾物収量



第2図 刈取時期別アルファルファの乾物収量